

研究ノート

教員指導方式のインターンシップの試み ーオンラインを活用したインターンシップ実践報告ー

栗原 由加

キーワード：教員指導方式のインターンシップ、外国人留学生、オンライン、テレワーク、テーマ型

1. 背景説明

神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部日本語コースは、外国人留学生のみが在籍するコースである。日本語コースでは、学生が卒業後に日本で就職すること、あるいは帰国して日本と関わりのある仕事に就くことを教育目標に掲げており、高度人材を育成することをめざすカリキュラムによる指導を行っている。4年間の学修の中で、特に大きな特徴であり山場となっているのが、3年次前期に行うインターンシップである。日本語コースのインターンシップは、在籍学生全員が必ず履修しなければならない8単位分の実習科目に位置づけられており、例年、インターンシップ先で約6週間の実習を行っている。

しかしながら、2020年度は、新型コロナウイルスの拡大により、従来の方法によるインターンシップを実施することは、完全に不可能なこととなった。まず、神戸学院大学では、2020年度前期の授業は、全てオンラインで実施することとなり、対面での授業はできないルールとなったため、学生がインターンシップ先へ毎日通勤することはできなかった。また、大学側の事情だけではなく、インターンシップ受け入れ先も、職場での感染対策や通勤人数の調整が行われている中で、例年のような形でインターンシップ生を受け入れ、職業体験をさせることは難しかった。

しかし、このような状況下であっても、授業科目として設定されているインターンシップ科目は、何らかの形で実施する必要がある。また、たとえ特殊な状況下であっても、インターンシップの学修目的をまっとうし、質を落とさない教育を実施することが前提であった。そこで、代替の手段による実施を考えるにあたり、従来の「インターンシップ先の職場の仕事を経験する」という一般的な職場体験型のインターンシップの方法ではなくても、日本語コースのインターンシップが目指す成果は変えないという方針のもと、2020年度前期は、全く新しい形のインターンシップの方式を考案した。ここでは、その方法を、教員指導方式のインターンシップと仮称する。

この方法は、文字通り、インターンシップでの教育を主に教員が担当するスタイルのインターンシップであり、従来の「インターンシップはインターンシップ先の職場で行うもの」という常識とは、全く発想を異にする。しかし、コロナ禍という特殊な事情下だからこそ試

みることができた新しいインターンシップの方法は、従来のインターンシップが抱えていたいくつかの問題を解決するヒントとなるものでもあった。本稿では、この実践例と効果、今後の展開の可能性について述べる。

2. 教員指導方式のインターンシップとは

本稿の「1. 背景説明」で、「従来の「インターンシップ先の職場の仕事を体験する」という一般的な職場体験型のインターンシップの方法ではなくても、日本語コースのインターンシップが目指す成果は変えない」と述べたが、これは「インターンシップでは何を学ぶのか」について、教育機関側が明確な考えを持っていなければならない、ということでもある。

現在、インターンシップに参加する大学生、大学院生の数は増加傾向にあると言われるが、インターンシップという制度が大学生の間で認知され、誰もが応募できる仕組みとなったのは最近のことである。実際は、その内容も期間も様々であり、インターンシップについての定義や目的や期間が定まっているわけではない。「インターンシップ」の意義が「学生が、キャリアと関連づけて、実社会との関わりの中で学ぶこと」なのであれば、必ずしも毎日の通勤が必須なわけではないという考え方もできる。

そこで、明確にしておくべきは、「インターンシップで学ぶべき項目」とは何かということである。本学日本語コースでのインターンシップは、既に2017年度、2018年度、2019年度と3回の実績がある。このインターンシップは、単位認定型、履修必修科目としてのインターンシップであり、学生の就職活動への導入、場合によっては将来の就職先につながるインターンシップであるという位置づけを前提に、次の4項目を学ぶべき項目（インターンシップ先が評価を行う項目）としてきた。

- 1) 基本的礼儀
- 2) 研修意欲
- 3) コミュニケーション（日本語）
- 4) 実習内容の達成度

従来のインターンシップでは、この4項目に関する具体的な学修内容と学修方法についてはインターンシップ先にゆだねていたが、この学修ができる方法を教育機関側が工夫し、教員による分担部分を設定すれば、必ずしもインターンシップ期間全日程での職場体験ではなくても、インターンシップに求める成果が期待できるのではないかと考えたのである。

3. (2020年度前期) 教員指導方式のインターンシップの実施内容

3.1. インターンシップ概要

- ・期間：2020年6月30日から8月11日までの25日間
- ・対象学生：3年次在籍学生25名および4年次在籍学生1名

- ・インターンシップ先：13 箇所（業種：商社、製造、加工、設備、旅行、介護、不動産、人材派遣、図書館、カフェ）
- ・形態：テーマ型
- ・方法：オンラインによるテレワークおよび週 1 回程度のインターンシップ先との面談
- ・テーマ：外国人留学生、外国人労働者がインターンシップ先で仕事をするために必要な日本語の語彙、知識を学ぶためのオンデマンド教材の作成

3.2. インターンシップの進め方

1) インターンシップ先と学生のマッチング

インターンシップを学生とインターンシップ先の双方にとって意義のあるものにするためには、適切なマッチングが必要である。そのため、事前の依頼書面によりインターンシップ受け入れの承諾を得たインターンシップ先（2020 年度は 13 箇所）と学生とのマッチングは、学生の適性とインターンシップ先の事情を把握している教員が行った。チームワークを学ぶという観点では、インターンシップは 2 名以上のチームを組んで実施するのが望ましい。2020 年度は、インターンシップ 11 箇所については、1 箇所につき学生 2 名ずつ、残りの 2 箇所については、学生 3 名を 1 箇所、学生 1 名を 1 箇所とした。

インターンシップ先と学生とのマッチングにあたっては、次の項目を判断材料とした。

- ・学生の卒業後の志望業界
- ・学生のコミュニケーション力、経歴などから判断できる、将来の就職先の可能性
- ・インターンシップ先の外国人労働者の国籍や業務内容
- ・インターンシップ先が希望する学生の属性

インターンシップ先の外国人労働者の就業状況を判断材料にする場合、職場で必要とされる言語を理由に、同じ国籍の学生どうしでチームを組ませることも多い。日本語の使用場面を増やすという観点で言えば、あえて母語の異なる学生でチームを組ませる方法もあるのだが、インターンシップにおいては、インターンシップ先での学生の能力の有用性を優先させることに、キャリア形成という観点での教育効果が認められるという考え方をする。また、チーム決めの際は、学生にチームの組み合わせの必然性を明確に説明することで、学生自身が持っている能力について再認識させることや、インターンシップ先への理解を深められるという効果を期待した。

2) インターンシップ先への依頼

インターンシップ先への推薦学生を決定後、インターンシップ先に学生の履歴書と推薦状を提出し、覚書を交わすことで、インターンシップ先に学生の紹介と正式な受け入れ依頼を行った。インターンシップ受け入れ決定後、教員からインターンシップ先に、インターンシップのスケジュール表（資料 1）、オンデマンド教材制作工程案（資料 2）、オンデマンド教

材のフォーマットイメージを提出し、インターンシップの進め方と、インターンシップ先に担当を依頼する部分について説明した。

教員指導方式のインターンシップは、学修内容やスケジュールを教員が決め、インターンシップ先の指導担当者が関わりながらインターンシップを進めていくスタイルとなるため、インターンシップ受け入れ側は、学修の全体像がつかみにくい。学生がインターンシップ期間中にどのようなスケジュールで過ごし、毎日どのような業務を行うのか、また、学生はインターンシップ先と具体的にどのような関わり方をし、インターンシップ先は何を担当するのか、面談回数は何回か、など、事前に教員とインターンシップ先とで情報共有しておく必要がある。

今回は、初めての試みとして教員指導方式のインターンシップを行ったため、インターンシップ先への説明段階では、教員側も提示した計画の通りにインターンシップが進められるか、定かではない部分があったが、最終的には、全てのインターンシップ先で、当初計画したオンデマンド教材の完成、提出まで行うことができた。これは、13箇所のインターンシップ先の全てが、2019年度までのインターンシップ受け入れ先であったり、あるいはこれまで何等かの交流実績があったりしたため、これまでの信頼関係をベースにしたインターンシップ先からの協力によるところが大きい。

3) インターンシップ実施

・1日の流れ

1日の業務は、毎日同じタイムスケジュールによって行う。就業時間中、学生は指定のZoom ミーティングに接続していなければならない。

時間	スケジュール
9:00	始業（始業の10分前にZoomでの出席確認） ・ミーティング（30分程度）：1日の業務内容の説明 ・チームで1日の業務計画の相談、業務計画書作成
12:00～13:00	休憩（13時にZoomでの出席確認）
15:00～15:15	休憩（15時15分にZoomでの出席確認）
18:00	終業 ・ミーティング（30分程度）：1日の業務内容の報告 ・業務報告書の作成

・25日間の流れ

インターンシップ期間の25日間を、大きく【準備】【制作】【仕上げ】の三つのタームに分け、各グループの進捗管理を行いながら作業を進めた。各タームの作業段階、報告書類、学修内容を以下に示す。

〈25 日間のスケジュール〉

	作業段階と報告書類	学修内容
1 日目	【準備】 ・日報（毎日） ・タイムスケジュール（毎日） ・週報（週 1 回） ・企業訪問報告（面談日） ・第 1 ターム報告書（8 日目終了後）	Zoom のマナー
2 日目		メールの書き方（お礼、相談、依頼）
3 日目		報告書の書き方
4 日目		面談の準備方法
5 日目		企業訪問のマナー
6 日目		
7 日目		
8 日目		
9 日目	【制作】 ・日報（毎日） ・タイムスケジュール（毎日） ・週報（週 1 回） ・企業訪問報告（面談日） ・工程管理表（13 日目） ・第 2 ターム報告書（16 日目終了後）	作業工程管理の方法、作業工程表の作り方
10 日目		パワーポイント資料の作り方（一般）
11 日目		作業分担の方法
12 日目		要望の聞き方
13 日目		提案の方法
14 日目		説明の方法
15 日目		
16 日目		
17 日目	【仕上げ】 ・日報（毎日） ・タイムスケジュール（毎日） ・週報（週 1 回） ・企業訪問報告（面談日） ・工程管理表（17、22 日目） ・第 3 ターム報告書（24 日目終了後）	デモンストレーションの方法
18 日目		パワーポイント資料の作り方（音声、デザイン）
19 日目		
20 日目		
21 日目		
22 日目		
23 日目		
24 日目		
25 日目	オンデマンド教材提出 ・日報 ・最終報告書	

3.3. インターンシップのテーマ設定とオンデマンド教材の内容

今回のインターンシップで作成したオンデマンド教材について、全体像を以下に示す。「3.1. インターンシップ概要」に記載した通り、オンデマンド教材作成の目的は「外国人留学生、外国人労働者がインターンシップ先で仕事をするために必要な日本語の語彙、知識を学ぶ」ことである。このテーマ設定は、通常は理系の学生が参加する、テーマ型（研究型）の長期インターンシップを参考にしている。インターンシップとは「仕事の体験」であり、その業務はインターンシップ先の業務として行うものである。したがって、その成果物はイ

ンターンシップ先の業務にとって役に立つものである必要がある。また同時に、テレワーク形式の「仕事」は、逐一インターンシップ先の指導者から業務の指示を受けなくても、ある程度自律的に業務を進められる内容であることが望ましい。

以上のことから、日本語コース所属の外国人留学生在が、その属性や大学での学修内容を生かしてインターンシップ先の業務に役立つ成果物を制作するなら、現在、外国人社員が増加する中で、習得に苦勞する職場の語彙学習に関する内容が適していると考えた。教材作成にあたっては、最初に教材の完成イメージとして共通書式のフォーマットを作成し、インターンシップ先に趣旨を説明し了解を得た後、具体的なテーマ、内容、レイアウト、デザイン等については、制作期間を通じてインターンシップ先の要望を聞きながら、学生がインターンシップ先に合わせて独自の教材に仕上げる方針とした。

- ・オンデマンド教材の構成（全てのインターンシップ先に共通の構成）
- ・「テキスト」部分と「テスト」部分の二部構成

〈テキストの構成〉

	学習項目	詳細
セクション1	文脈から語彙を学ぶ	画像を見ながら、200文字程度の文章を聞いて、学習する語彙が使われる文脈と内容を理解する
セクション2	単語として語彙を学ぶ	画像を見て同時に音声を聞きながら、学習する語彙（20～30個）の発音、アクセント、表記を学ぶ
セクション3	文の中で語彙を学ぶ	画像を見て同時に音声を聞きながら、学習する語彙（20～30個）の文の中での使い方を学ぶ

〈テストの構成〉

	テスト項目	解答方法
セクション4	・学習した語彙を聞き取れるか ・学習した語彙の表記がわかるか	音声を聞き、正しい語彙を選択する
セクション5	・学習した語彙を使った文章を正しく読めるか	提示された文章を読み、録音する

- ・使用ソフト

Microsoft PowerPoint

- ・教材のテーマ（13箇所分）
- ・通関業務に関する語彙
- ・建設現場で使用する道具と標識についての語彙

- ・観光業の企業行動憲章に関する語彙
- ・介護現場で使用する語彙
- ・研修施設を使用する時の語彙
- ・図書館利用のマナーに関する語彙
- ・床上操作式クレーンに関する語彙
- ・商社の在庫管理方式の特徴に関する語彙
- ・賃貸サービスに関する語彙
- ・企業の5S活動に関する語彙
- ・板金加工工程管理に関する語彙
- ・美容業に関する語彙
- ・教科書には書いていない日本語（社会人になる上で知っておきたい語彙）

4. 教員指導方式のインターンシップの長所

4.1. インターンシップ実施方法、参加方法の柔軟性

今回、教員指導方式のインターンシップを実施したことで、この方式には、従来の職場体験型のインターンシップにはなかった長所があることがわかった。まず、実施方法については、以下のとおりである。

- 1) 学生の所在地を選ばない
- 2) インターンシップ受け入れ先企業、職種の可能性が増える

まず、「1）学生の所在地を選ばない」ということについて、今回のインターンシップは、毎日の教員による指導をテレワークで行い、インターンシップ先との週1回程度の面談も、半数はZoomを使用したオンラインで行われた。実は、今回のインターンシップに参加した26名のうち3名が春休みに帰国し、その後日本に戻れなくなったため、母国からオンラインで参加したが、毎日のテレワークでは、学生の所在地にかかわらず、全員が同じ条件で業務を行うことができた。これは、テレワークであれば、海外からでも日本企業のインターンシップに参加する方法があることを示すものであり、そうであるなら、今後は逆の、日本から海外へのインターンシップ参加も不可能とは言えない。

また、「2）インターンシップ受け入れ先企業、職種の可能性が増える」について、これは特に文系の学生のインターンシップの機会や期間を拡大する可能性があるということである。理系の学生のインターンシップには、専門性を生かしたテーマ型のインターンシップの方式が定着しているのに対し、文系の学生のインターンシップには職場体験型が多い。その内容には、①学生の大学での専攻を生かした職場でのインターンシップ、②専門性とは関係なくインターンシップ生が体験できる仕事がある職場でのインターンシップ、③企業見学の要素が強いインターンシップ、のようなパターンがあるが、①のようなパターンは非常に限られており、また、②や③のパターンは、栗原（2020）で「企業にとってインターンシップ

やアルバイトなどの長期的な方法が負担になる」(栗原 2020, p.93)と述べたように、特に中小企業にとっては負担が大きい。

しかし、教員指導方式のインターンシップであれば、インターンシップ受け入れ側は、1日中職場で学生の指導を行う必要がないため、現場指導者の負担は少なく参加しやすい。実際、今回のインターンシップでは、13箇所のインターンシップ先のうち、6箇所が新たな受け入れ先であった。いずれも、2019年度までの通勤型のインターンシップであれば、25日間の長期の学生の受け入れは難しかったのではないかと考える。

4.2. 学生の自己評価

次に、教員指導方式のインターンシップによる学生の学修効果について述べたい。既に述べたように、今回の教員指導方式のインターンシップは、学生に成果物の制作を課すという、テーマ型のインターンシップである。日本語コースでは、インターンシップ終了後に学生に自己評価をさせており、その結果を見ると、2019年度の職場体験型のインターンシップと、2020年度の教員指導方式のインターンシップでは、自己評価の点数に明らかな違いがあった。

2020年度の自己評価の項目は「1. 基本礼儀」「2. 取り組み姿勢」「3. 日本語でのコミュニケーション」「4. 成果物（オンデマンド教材）」であり、これらの項目について5点満点（5点：非常によくできた、4点：問題なくできた、3点：概ね問題なかった、2点：練習・改善の必要があった、1点：できなかった）で自己評価をさせた。2019年度は、上記評価項目の1から3について自己評価をさせており、以下に自己評価平均点を並べて示す。点数は、小数点第三位以下を四捨五入した数字である。

〈2019年度生：24名〉

基本礼儀：4.57点、取り組み姿勢：4.35点、日本語でのコミュニケーション：4.22点

〈2020年度生：26名〉

基本礼儀：4.08点、取り組み姿勢：3.85点、日本語でのコミュニケーション：3.23点

2019年度と2020年度の自己評価の点数を比較すると、全体的に2020年度の自己評価の平均点が低く、特に「日本語でのコミュニケーション」の自己評価の点数が低いことが分かる。実際は2019年度と2020年度との学生の日本語力にはさほど違いはなく、日本語能力試験の取得状況でいえば、2020年度の方が上位の級の取得率が高いが、このような結果であったことは興味深い。これは、職場体験型と教員指導方式では、求められる日本語力、文章力の種類が異なり、特に今回の教員指導方式のインターンシップで求められた「先方の要望を聞く」「メールで仕事を進める」という作業が、学生が自分の日本語力の不足を感じる理由となったことが考えられる。実際、自己評価に伴う改善点についてのコメントについて

も、2020 年度生は日本語力の必要性に関する記述が多かった。この点については、今後更に調査研究が必要であるが、インターンシップによる学生の問題意識の向上という点に、教員指導方式のインターンシップの長所があることが窺えた。

5. まとめと今後の可能性について

今回行った教員指導方式のインターンシップは、コロナ禍という特殊な状況での初めての試みであったが、この方式ならではの長所を見出すことができた。もっとも、通常の職場体験型のインターンシップにくらべると、学生にとっては「職場の様子がわからない」、インターンシップ先にとっては「学生の能力や性格について詳しくはわからない」、教員にとっては「インターンシップ先との調整や教育の負担がある」などの問題もあるが、インターンシップでの学修方法について、今後、より多くの教育機関、インターンシップ先、学生がインターンシップに参加する新たな可能性が示されたことも事実である。2021 年度以降、職場体験型のインターンシップをメインにインターンシップを実施できるか定かではない状況において、教員指導方式のインターンシップを継続的に実施し、効果を検証するという方向性は、現実的なことだろう。

〈参考文献〉

栗原由加（2020）「外国人材の定着促進のための着眼点－阪神地区の日本企業へのアンケート調査結果から－」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第 5 号，pp.87-98.

〈謝辞〉

前例のない特殊な状況の中で、新しい方式でのインターンシップにご協力いただき、ご指導くださったインターンシップ受け入れ先のみなさまに、心よりお礼を申し上げます。

2020年（令和2年） インターンシップスケジュール

6月

1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	↑

7月

1	水		<第1週> ・学生準備 （ご挨拶準備、 （ヒアリング準備）
2	木		
3	金	↓	
4	土		
5	日		
6	月		
7	火	↑	<第2週> ・ヒアリング ・ヒアリング内容 整理
8	水		
9	木		
10	金	↓	
11	土		
12	日		
13	月		
14	火	↑	<第3週> スクリプト部分制 作
15	水		
16	木		
17	金	↓	
18	土		
19	日		
20	月		
21	火	↑	<第4週> ・語彙部分制作 ・進捗報告 ・内容修正
22	水		
23	木		
24	金	↓	
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	↑	<第5週> ・文練習部分制 作 ・進捗報告
29	水		
30	木		
31	金	↓	

8月

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	<第6週> ・リーディングと 提出部分制作 ・進捗報告
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	提出
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

←→ 大学の管理によるテレワーク（9時から18時まで、自宅でインターンシップ先のための教材作成作業を行っています。）

日本語オンデマンド教材制作工程（案）

セッション番号	学習項目	工程	学生の作業内容	依頼内容
セッション 1	文章を聞いて、語彙が使われる文脈と内容を理解する	①	・学習者に学んでほしい内容の文章を 600 文字程度で準備する。(文章 A)	文章 A A1、A2、A3 画像 (3 種類)
		②	・文章 A を 200 文字程度の三つのパート (A1、A2、A3) に分割する。	
		③	・A1、A2、A3 のそれぞれに適切な画像を準備する。	
		④	・文章 A を学習者にとって適切な表現の文章に修正する。	
セッション 2	・語彙の発音を覚える ・語彙の表記を覚える	⑤	・文章 A から、特に学んでほしい語彙を選ぶ。(20～30 個：語彙 B)	語彙 B の選択 画像 音声録音
		⑥	・(必要がある場合) 選んだ語彙 B に外国語訳をつける。	
		⑦	・(可能な範囲で) 選んだ語彙 B の理解の助けになる画像を準備する。	
		⑧	・選んだ語彙の音声データを録音する。	
セッション 3	語彙の意味、使い方を覚える	⑨	・選んだ語彙が使われている文 (文 C) を準備する。 (文章 A からでもよいし、新しく作った文でもよい。)	文 C 文 C 録音
		⑩	・(可能な範囲で) 文 C を理解する助けになる画像を準備する。	
		⑪	・文 C の音声データを録音する。	
セッション 4	語彙テスト ※語彙が聞いてわかる ※語彙の表記がわかる	⑫	・文 C を使った語彙テストを作成する。 (音声を聞いて、正しい語彙を選択する問題)	
セッション 5	読み方テスト ※文章が正しく読める	⑬	・文章 A の一部または文 C から読み方テストの文章を作成する。	読み方テストの 文章検討

- 上記制作工程については、インターンシップ受け入れ先と相談の上、適宜調整しながら進めます。
- 制作した教材には「制作協力：神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部日本語コース」という記載を入れます。
- 教材制作後、作成した教材を公開し一般的な使用可とするか否かをご検討ください。併せて、Windows 環境でのシステムで利用できる教材とするか否かをご検討ください。

資料 2